

事故・
ヒヤリハット
事例

**建物火災
事例
1**

建物火災に消防車両で出勤し、現場付近の道路に停車し下車するためドアを開放した際、目の前の火災に気を取られ、後方確認を怠ったため、後方から接近してきた車両とドアが接触しそうになった。

**結果**

負傷者なし

対策

機関員がサイドブレーキを引き、前後左右を確認し「ヨシ！」の合図で降車する。

指揮者及び他の団員も確認に協力する。

建 物
火 災
事 例
2

夜間に国道付近で発生した火災に出動し、現場到着後、ホースを延長するためドアを開け降りようとした際、気があせり周囲の状況を確認しなかったため、後続のトラックにはねられそうになった。

結 果

負傷なし

▶▶▶ 対策

交通量の多い道路では、歩道側のドアから降車し人身事故に注意する。
現場到着後、指揮者が「前方、後方の安全を確認し作業にかかれ」と号令、指示してから、各団員はその指示に従って「前方ヨシ!」「後方ヨシ!」と指差し呼称し、安全を確認して活動する。

建 物
火 災
事 例
3

夜間に発生した火災に出動し、現場到着後、ホースを持って積載車から降りる際、暗くて足元が確認できず、気があせっていたため、足元のポンプ搬送用レールとナンバープレート座に引っかかり転倒しそうになった。

結 果

頭部打撲、切創

▶▶▶ 対策

夜間、積載車から降りる時は、ホースを持たないで足元を確認しながら行動する。

夜間に作業する場合は、作業灯を点灯する。

建物火災

林野火災

その他火災

風水害

捜索救助

演習訓練

ポンプ操作

警戒・広報

往復経路

その他
点検整備・

**建物火災
事例
4**

火災現場に出動し、火点に直近部署した車両へ中継送水するため、部署位置を探しながら走行中の消防車両が、作業中で停車していた消防車両と接触しそうになった。

結果

負傷なし

対策

すれ違い時の一時停止、同乗者による目視確認を行うとともに部署位置や作業内容などを無線交信で事前に共有する。また、迂回路を確認し、一時的な全面通行止めの措置をとる。

**建物火災
事例
5**

夜間に発生した建物火災に出動し、自然水利に部署するため消防車両を後退させていた際、周囲が暗く見通しがきかなかったため、車両ごと転落しそうになった。

結果

負傷なし

対策

運転者は危険が予想される場所では、自らが降車して周囲を確認する。誘導員を配置して、安全管理に十分注意する。

建
物
火
災
事
例
6

木造平屋建て公民館の火災に出動し、ホースを延長して筒先を搬送する際、すでに延長されていたホースを避けながら走っていたところ、前日に降った雪が凍結しており、足を滑らせ転倒した。

結 果

肋骨骨折

▶▶▶ 対 策

火災現場付近は落下物、ホース等で転倒しやすいので足元を確認しながら行動する。更に冬期は道路が凍結する恐れがあるので道路の状況をよく確認して行動する。

建
物
火
災
事
例
7

建物火災に出動し、現場付近の幹線道路上で道路を横切ってホース延長作業をしていた際、左右の確認を行わなかったため、直進してきた一般車両に轢かれそうになった。

結 果

負傷なし

▶▶▶ 対 策

車、人等交通量の多い場合又は団員の安全に危険が予知される場合には、誘導員を配置する。
道路を横切って作業をする時は、通行する車両、人からの安全を確認し、すばやく作業する。

建物火災

林野火災

その他火災

風水害

捜索救助

演習訓練

ポンプ操作

警戒・広報

往復経路

その他
点検整備・

**建物火災
事例
8**

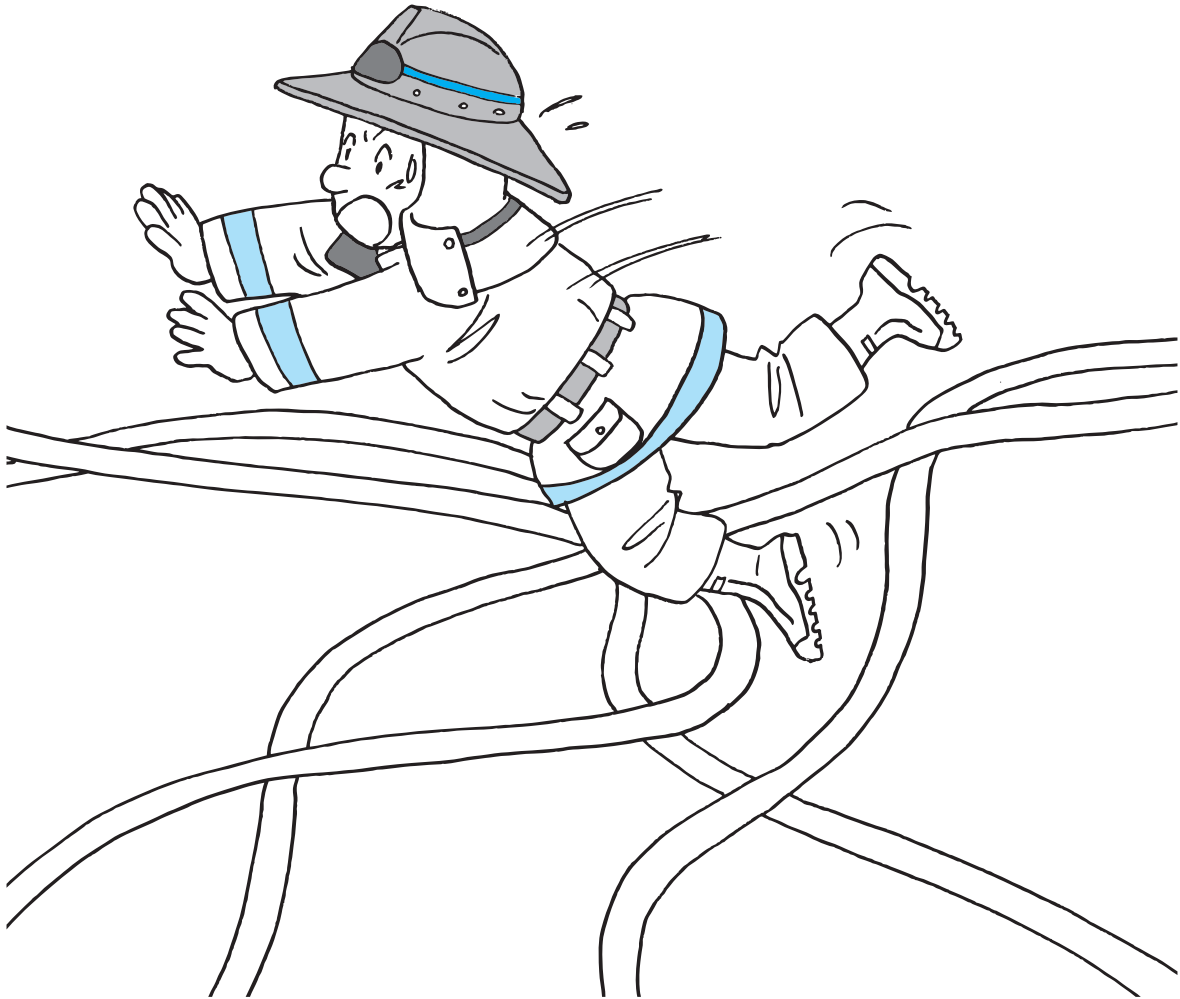
深夜に発生した建物火災に出動し、筒先担当員としてポンプ車からホースを担ぎ出火場所に向かって走ろうとした際、日中に溶けた雪が深夜に気温が下がったため路面が凍結しており、足を滑らせ転倒した。

**結果****後頭部及び左肩打撲****対策**

冬場の火災現場で、路面が凍結又はゆるんでいる場合は、足元を確認しながら作業する。ホース搬送は足が滑らないよう1本とする。

建物
火災
事例
9

夜間に発生した建物火災に出動し、伝令のため現場付近を走っていた際、周囲が暗く何本ものホースが入り乱れていたため、ホースにつまづき転倒した。



結果

右第5指中足骨骨折

対策

夜間の災害現場は見通しがきかず多くの危険要因が存在するため、照明器具を用いて足元など周囲の安全確認を確実にしながら行動する。

建物火災

林野火災

その他火災

風水害

捜索救助

演習訓練

ポンプ操作

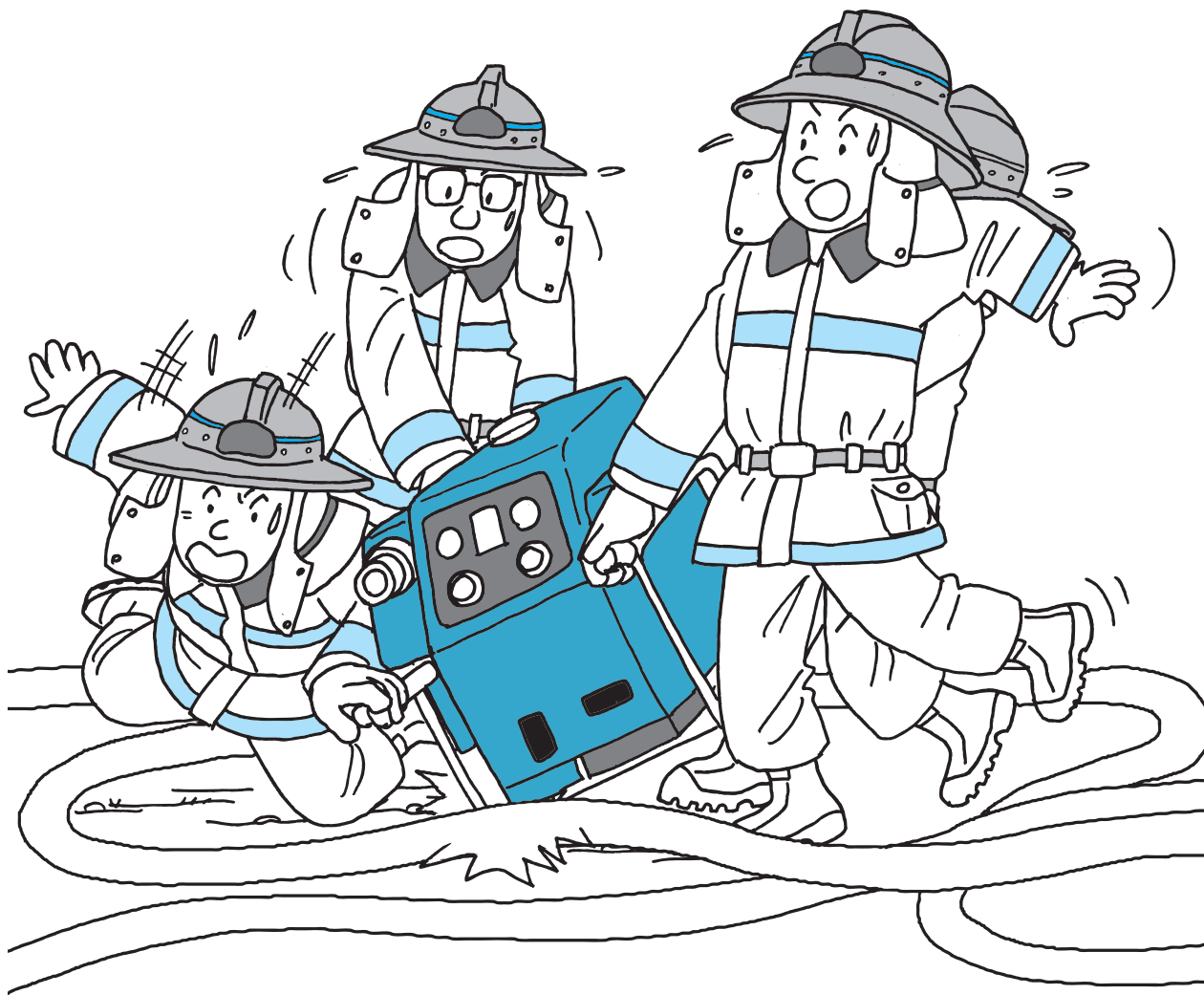
警戒・広報

往復経路

点検整備・その他

**建物火災
事例
10**

県道沿いの建物火災に出動し、小型ポンプを水利場所まで搬送中、先着隊のホースが入り乱れている状態であったため、ホースに足を取られて転倒した。

**結果**

負傷なし

対策

ポンプの搬送にはできるだけ多くの人員をかけ、足元を確認（足元確認ヨシ！を呼称）しながら搬送する。

建物
火災
事例
11

建物火災に出動し、火災現場で伝令のため狭い通路を走って角を曲がった際、角の向こう側から来た隊員と出会い頭に衝突した。



結果

負傷者なし

対策

前方が見通せない場所ではゆっくりと安全を確認しながら行動する。
危険を予知する能力を養うため、団員個々のヒヤリハット事例を団員全員で共有する。

「消防団危険予知訓練」を活用する。

建物火災

林野火災

その他火災

風水害

捜索救助

演習訓練

ポンプ操作

警戒・広報

往復経路

その他
点検整備

建物火災
事例
12

建物火災に出動し、消火作業に従事した。鎮火後の撤収作業中、境界フェンスをまたいで飛び降りた際、バランスを崩し転倒した。



結果

右足打撲

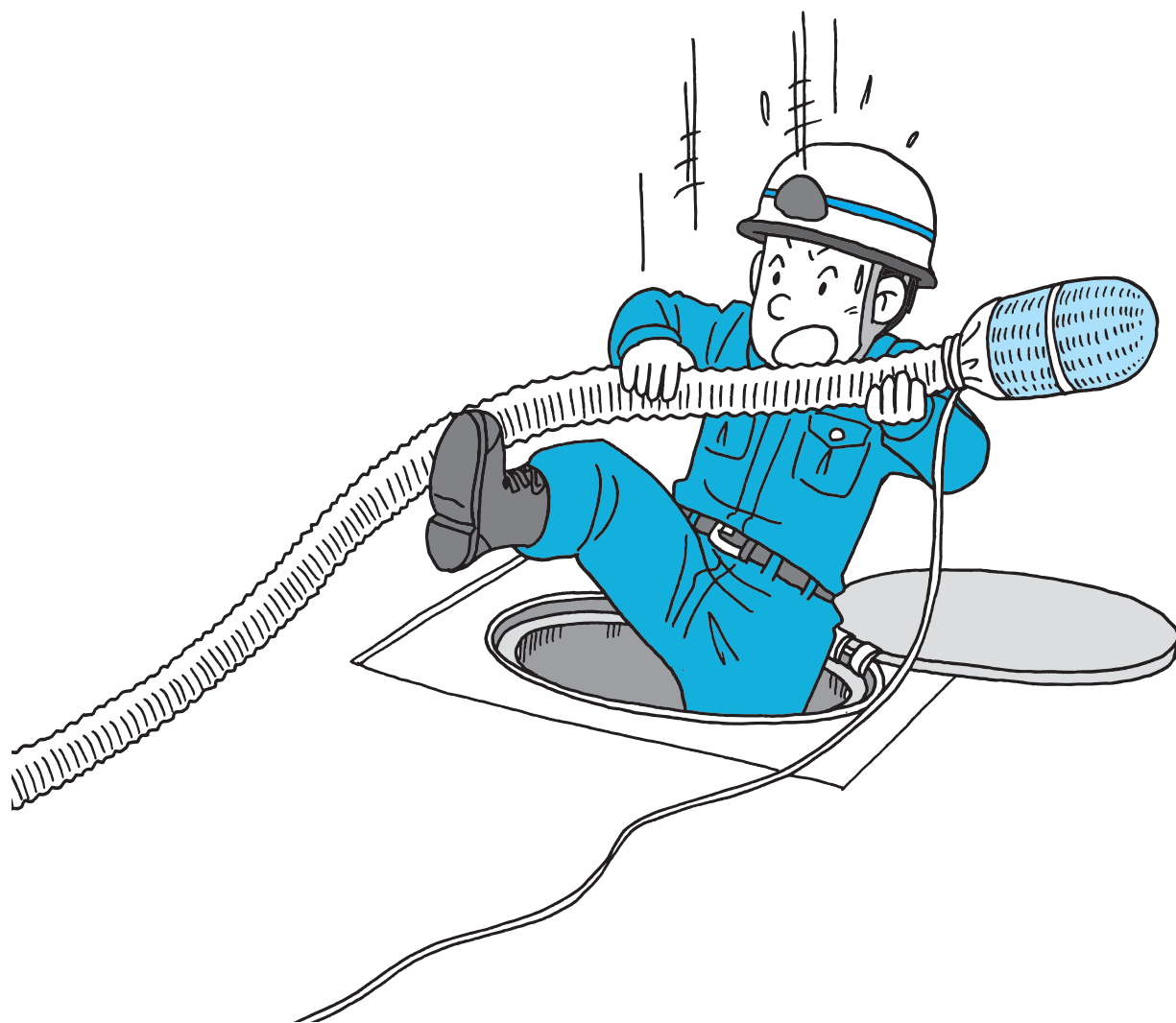
対策

撤収作業は、早急な作業が必要である場合を除き、フェンスを乗り越えること等はしない。(迂回路があれば迂回する。)

フェンスを乗り越える必要がある場合は、積載はしご等を活用し、安全確実な方法で行う。

建 物
火 災
事 例
13

建物火災に出動し、現場到着後、水利部署するため地上面の防火水槽に吸管を入れようと後ろ向きで勢いよく展開していた際、防火水槽の蓋が開いてたため防火水槽に転落した。



結 果

負傷者なし

▶▶▶ **対策**

指差し呼称を励行し、2人で作業をする時は、お互いに確認の呼称を行う。

水利をが見える姿勢で作業を行う。

建物火災

林野火災

その他火災

風水害

捜索救助

演習訓練

ポンプ操作

警戒・広報

往復経路

点検整備・その他

建物火災
事例
14

火災現場に出動し、消火栓に水利部署してポンプ車の吸管を消火栓に取り付け、現場直近のポンプ車へ送水するため消火栓をハンドルで開放した際、消火栓への吸管取り付けに不備があったため、水圧により吸管がはずれ、一般住民に当たりそうになった。



結果

負傷なし

▶▶▶ 対策

消火栓への吸管取り付けは確実にやり、取り付けた後は吸管を引っ張って結合を確認する。また、消火栓のバルブ開放はゆっくり行う。

建 物
火 災
事 例
15

建物火災に出動し、現場到着後、ポンプ車からホースを延長し結合しようとした際、機関員が「放水始め」の合図を確認せず放口を開け、予備送水を行ったためホースが暴れた。

結 果

負傷者なし

▶▶▶ 対策

ポンプ操法どおりに「放水始め」、「放水止め」の伝達呼称と確認の復称を励行する。

建 物
火 災
事 例
16

木造2階建て住宅火災に出動し、ポンプと放水現場が遠かったため継ぎポンプをして放水準備中、筒先担当員が管鎗を保持する前に送水されてしまった。

結 果

負傷なし

▶▶▶ 対策

ポンプ操法の基本どおり「放水始め」「放水止め」の伝達・呼称と確認を確実に実施する。

訓練時に放水開始の伝達・呼称確認の重要性や管鎗が暴れる危険性を指導する。

ホースが暴れ負傷者が発生する危険があるので、放水が停止するまでの間、2、3人でホースを地面に押さえ込むことも場合によっては必要であることを指導する。

建物火災

林野火災

その他火災

風水害

捜索救助

演習訓練

ポンプ操法

警戒・広報

往復経路

点検整備・その他